

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400855		
法人名	特定非営利活動法人黎明		
事業所名	グループホーム夢路		
所在地	熊本県玉名郡和水町前原90-1・91-1		
自己評価作成日	令和5年1月16日	評価結果市町村受理日	令和5年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1		
訪問調査日	令和5年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者・家族が安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいる。利用者以外はすべて環境という意識を職員全員で持ち、生活空間づくり、危険のない清潔なホームを保つようにしている。そして、利用者の自立・自律支援を大切にしている。職員の看護・介護観を重視し、ホーム研修において常に学び、深めて利用者の立場に立って考えられる職員研修を行っている。看取りの時がきても、本人・家族、医療機関との連携を図り、最後まで「自分らしく生きる」ことの支援に努めます。利用者の自己決定、意思の尊重を深く考えた生活の支援をします。多職種連携を強化し、地域に開かれたホームであるように情報発信、協力の要請、相談等を地域と共に行っている。今後も、認知症になっても、誰もが安心して暮らせる地域づくりに貢献したい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2002年の開設以来、質の高いケアを継続して追求し、入居者と家族を支え、地域住民と交流しながら貢献している。入居に至る様々な背景、入居者と家族の関係等、一人ひとりの事情を十分把握し、入居後は、本人のケアのみならず、必要に応じて家族との関係修復や、家族の困りごとの解決に向けて支援するなど、協力を惜しまない。医療機関と密に連携を図り、重度化した際は適切な医療が受けられるように看護師を多く配置するなど、職員体制も整えている。これまで165人の入居者を受入れ、51人の看取りを行っている。家族からは、多くの感謝の声が寄せられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

GH夢路・西ホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてホーム内研修で取り上げ、確認し、共有している。また、常に掲示しており、ケアのあり方を日々振り返り、理念に沿ったケアにつなげている。	「入居者一人ひとりに対して、一人の人として尊厳を持ってケアを行うこと、介助する前に必ず本人に話しかけ、意思を確認して支援すること」をケアの基本として職員に徹底し、理念に込めた思いを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、区のお宮である行事の輪ぐりには、声をかけていただき参加している。認知症サポーターの方々、社協、ボランティアの方と利用者が交流する機会がある。コロナ禍のため利用者との交流はできていない。	2002年開設から地域住民として区の行事等に参加し、日常的に交流している。管理者は、認知症サポーター養成講座や、老人会主催の講演会等で講師を努め、地域貢献活動も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム長自宅横にホームがあり、地域の高齢者の暮らしに気を配っている。老人会や区役にも参加し、交流している。又、スタッフも支援できる場所は協力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、家族、行政との情報交換や意見交換、要望を聴き、そのことを謙虚に受け止め、サービスに活かしている。コロナ禍のため状況を見ながら開催している。	コロナ禍に於いては、資料を委員に送付しての書面会議となっている。2023年1月は、対面での会議を開催する予定だったが、コロナクラスター発生のため急遽延期となっている。運営推進会議では、食材費など、運営に関する費用等の課題も検討されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の福祉課や社協とも連携は密に取り合っており、協力関係ができています。また、中学生の福祉体験などの受け入れは、現状できていない。	運営推進会議に町の福祉課が参加しており、日頃から連携ができています。新型コロナウイルス感染症が発生した際は、防護ガウン・PCR検査キット等の提供で、適切な対応が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強をし、理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、玄関、ベランダの鍵は、日中開けおり、自由に行き来できるようにしている。	身体拘束についての正しい知識が得られるように「身体拘束等適正フローチャート」に、具体的なステップを明示した資料で勉強会を行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会での学ぶ機会を多く持ち、スタッフ間で情報を共有し、日々のケアを振り返りながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時に支援できるように把握し、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人や家族の思いや不安などをしっかり受け止め、十分な話し合い、説明を行った上で、理解、納得されているか確認をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関のカウンターに設置している。また、日ごろから何かあれば気軽に言うてくださるように伝えている。	入居者の生活の様子を写真で撮り「夢路通信」に載せて家族に送付している。また、入居者の状況を電話でこまめに報告することで、コロナ禍で面会が制限されている家族の安心に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会を通して、意見交換、話し合いの場を設けている。ホーム内研修では、BS法を用いて自由に発言出来る環境にしている。	毎月ホーム内研修を行い、認知症・感染症・倫理・身体拘束等について学ぶ機会を確保している。職員会議では、職員の気づきや意見を検討し、ケアの質の改善に繋げている。、	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、目標管理で各自の意識を確認し、向上心を持って働けるように研修があれば参加の声をかけたり、資格の情報提供をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回のホーム内研修を行い、利用者の現状、月行事の計画、スタッフ間の意見交換の場を設けている。必ず一つテーマを決めて学ぶ機会を作っている。又ホーム外研修にも積極的に参加し、学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二か月に一回のグループホーム連絡会には必ず参加し、他ホームとの意見交換、勉強会を行い、交流の場ともなっており、サービスの質の向上になっている。コロナ禍のため現状ではFAX、電話で情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があってから、本人と面談し、本人の思いを確認する機会を持ち、安心してもらえるように努めている。本人の希望を確認するためにも、スタッフ間でカンファレンスを行い、情報共有、再確認、家族の希望も取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談しやすい環境を作り、家族の思いを受け止め、今の思いや、これからの不安、希望等を確認し、家族と共に支援していくことを何度も伝え、理解の確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の中から、その時何が必要か、どのような支援が必要なのかを読み取るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する中で、人生の先輩として本人から学ぶことも多く、お互いを理解し、支えあう関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族のこれまでの関係を大切にしながら、本人を支援できるように、家族とスタッフの間で、情報の共有を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にされてきた方々の面会があった時は、居室や相談室で大切な時間をゆっくり過ごしていただけるようにしている。コロナ禍では、窓越しに会ってもらい、声が聞こえにくいため、お互いが話されることをスタッフが伝えるようにしている。	会いたい家族に会えなくて不穏になる入居者のために、家族に相談して写真を送ってもらい、入居者の心の安定を図るなど、細やかな観察から要因を探り、馴染みの関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然とお互いを気遣い、支え合いながら過ごされている。気の合うもの同士、それぞれが好みの場所で自由に一緒に談笑されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、これまでの関係を大切に、家族には可能な限り支援している。本人にも面会に行き、声かけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望をしっかりと把握するようにしている。その思いや希望を申し送りノートを使い、スタッフ間で情報共有し、思いを受け止め、利用者本位のケアを目指している。	入居者の心に潜む心配事や本音など、日頃の会話から把握した思いは、しっかり受け止め、職員間で共有し、入居者が安心してゆっくりとした気持ちで暮らせるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフ全員で、今までの生活歴を把握し、本人らしさを大切にケアや暮らし方を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人家族の情報をもとに、一日の過ごし方を把握し、その生活の中から、表情、会話、行動等を観察しながら、心身の状態を把握するよう努めている。また、その中でできる力等の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い、思いを大切に、現状に即した介護計画を作成している。また、状態が変化した場合、再度話し合い、変化に応じた計画を作成している。	入居者が何に困り、何を求め、どのような支援が必要か、本人本位の介護計画が立てられている。支援内容は具体的に分かりやすく、計画に沿った支援が実施されていることが、経過記録で確認できる。定期的なモニタリング・計画の見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活の様子、言動などを観察し、個人カルテに詳しく記録している。スタッフ間での情報共有ができ、介護計画の見直しや、日々のケアの振り返りに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と外出、外泊がいつでもできるようにしている。家族が泊まることもできる。訪問看護や訪問診療など、本人のその時の状態に対応している。コロナ禍のため状況を考慮しながら病院受診のみ外出される。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いつも行く買い物で利用する店の方の協力が得られており、利用者と安心して買い物に行くことができる。ボランティアの方々の踊り、歌等の慰問もある。コロナ禍のため行われない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を重視している。医療機関とも密に情報交換し、すぐに対応できるように関係を作っている。	入居前のかかりつけ医の継続受診を支援しているが、かかりつけ医への通院が難しくなった時は、訪問診療が受けられる協力医への変更を促している。看護師を多く配置し、医療機関と密に連携を図り、適切な医療を受けられるような環境を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの中に看護師が多く、気づきがあれば、相談、情報交換、協力しながら利用者の受診、看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会に行き、状態、情報収集をしている。環境の変化が利用者には大きく影響を及ぼすので、病院側と密に連絡を取り合い、情報交換、相談をしている。日頃から情報交換し連携できている。コロナ禍で可能なかぎりの支援。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期へ向けて家族、かかりつけ医との話し合いを適宜行っている。月一回の訪問診療、必要時看護を導入して、医療、看護、介護のスタッフがチームとして支援している在宅酸素の導入もしている。	看取りが必要な状態になった際、本人・家族が希望する場合は、ホームでの対応について十分説明し、同意を得て医療と連携を図りながら対応するとしている。これまで51人の入居者を看取り、その家族から感謝の声が多く寄せられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師がいるため、急変時迅速な対応ができています。その他のスタッフもできるように日頃から勉強、訓練を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の大切さを日頃から意識付けをしている。地域の方々との協力体制もできている。	年に2回、夜間の火災を想定して避難訓練を実施している。避難誘導時に戸惑いが生じないように、誘導する手順等を夜勤日誌に示し、スムーズな避難を行うよう備えている。消防署への通報・水消火器の使用訓練を実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しながら、言葉かけや対応に気をつけ、プライバシーの保護を徹底している。	一人ひとりの思いや要望に配慮し、心地よく、安心して過ごせるような環境で、安全確保につとめ、プライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた説明をし、納得をいただいている。本人の思いや希望が表せるような雰囲気を作り、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を確認するためにも、スタッフ間でカンファレンスを行い、情報共有、再確認、家族の希望を取り入れている。本人らしい暮らしができるように、本人の希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室へ行きたい利用者に対しては、スタッフと一緒に行ったり、家族で連れて行かれることもある。ホームでのカットを希望されれば、スタッフが対応している。本人希望の洋服の選定を支援。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切り、お茶つぎ、食器拭き等一人ひとりの力を活かし、楽しみながら一緒にしている。季節野菜の話をし、どう料理するか一緒に考え、食事に提供することでより食事を楽しむ機会になっている。感染対策に十分注意を配慮して行う。	新鮮な食材を豊富に使って、馴染みのある家庭的な料理が提供されている。入居者も野菜切りなどで調理に参加し、職員も一緒に同じ食事をとりながら、旬の野菜や果物の話で会話も弾み、楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して、栄養のバランスを考えながら献立を立て支援している。食事量しっかりと把握し、その人に合わせて提供している。また、一人ひとりに合わせて、お粥食、きざみ食、小盛食等用意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけ、口腔内の確認をして口腔内の清潔を保っている。口腔ケア指導を歯科衛生士さんから受け、口腔ケアの重要性を認識している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、スタッフで共有している。また、排泄のサインを見逃さないように観察している。プライバシーの配慮しながら介助する。	バイタルチェック表に排泄状況を記録して状態把握を行い、排泄サインを見逃さずタイムリーな誘導で、排泄の自立支援に努めている。適切な排泄用品の使用で、入居者の費用負担へも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物を取り入れる等の食事の工夫やおやつ時のからいも、冷たい牛乳などで便秘への働きかけを行っている。また、夕食にきな粉を入れたヨーグルトを食べてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の気分や体調(バイタルチェック)を把握し、本人の希望に沿って楽しく入浴できるようにしている。	入浴は週2回を基本としている。入浴後は水分補給を行い、約1時間の睡眠で休養をとっている。入居者が入浴をする気分にならない時は、時間をあけて声掛けしたり、日にちを変えるなど、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休息をとりたい方もおられるので、その時は、ゆっくり休んでいただくようにしている。夜間も安心して眠られるように、声かけ、見守りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自が服用している薬について情報を共有し、理解している。副作用がないか薬の変更時には特に注意し観察している。薬を袋より出し、手渡ししたり、口に入れ、飲み込まれるまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自ら洗濯物たたみ、食事の準備、食器拭き、草取り等希望され、本人なりに役割を持って過ごされている。また、ベランダへ出て散歩等、気分転換されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物には同行はできず、お宮などに散歩はいかれている。コロナ禍を意識しながら、適宜支援する。	田園風景が広がる地域に位置し、手入れの行き届いた庭には、季節の花が咲き、鳥の音が聞こえ、庭での日向ぼっこや散歩が楽しめる環境となっている。コロナ禍で外出は控えているが、終息後は、買い物同行等を再開したいとしている。	コロナが終息するまでは、車窓から景色を味わうような、安全を確保した小さな外出などが検討されることも期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望にて、財布を持たれている方もおられる。手元にあることで安心されている。お金の出し入れはほとんどない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族への電話を希望されれば、自由にできるようにしておいたり、会話することで落ち着かれ安心されている。手紙のやり取りができる人はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雑音、騒音もなく不快な音や光がないように配慮している。玄関や食堂には季節の花が生けてある。	リビングダイニングはタタミ敷の居間に繋がりが、入居者が好きな場所で寛げる広さが確保されている。手作りのひな人形を飾り、カレンダーを掲示して季節を知らせている。屋内は、絵画や花が飾られ、清潔で心地よい環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、和室ソファ、こたつ等それぞれの好みの場所で、一人でゆっくりくつろいだり、気の合う方同士でそれぞれの時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでいいということ伝えても、なかなか持込みはされず、私物は少ない方が多いが、本人はそれで納得し安心しておられる。中には、より混乱を起こされる。	入居の際は、家族とともに自由な部屋作りを推奨している。しかし、一人ひとりの精神的な状況や、家庭環境、家族の事情等に配慮し、持ち込みが少なくても、本人の安定した暮らしの確保を優先に支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりが付いており、必要時手すりにつかまり歩行、立ち上がりされている。ドアがどこも似ており、トイレの文字をわかりやすく書いたり、居室の名札は利用者の目線に合わせた高さになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400855		
法人名	特定非営利活動法人黎明		
事業所名	グループホーム夢路		
所在地	熊本県玉名郡和水町前原90-1・91-1		
自己評価作成日	令和5年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1		
訪問調査日	令和5年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者・家族が安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいる。利用者以外はすべて環境という意識を職員全員で持ち、生活空間づくり、危険のない清潔なホームを保つようにしている。そして、利用者の自立・自律支援を大切にしている。職員の看護・介護観を重視し、ホーム研修において常に学び、深めて利用者の立場に立って考えられる職員研修を行っている。看取りの時がきても、本人・家族、医療機関との連携を図り、最後まで「自分らしく生きる」ことの支援に努めます。利用者の自己決定、意思の尊重を深く考えた生活の支援をします。多職種連携を強化し、地域に開かれたホームであるように情報発信、協力の要請、相談等を地域と共に行っている。今後も、認知症になっても、誰もが安心して暮らせる地域づくりに貢献したい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

GH夢路・東ホーム

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念についてホーム内研修で取り上げ、確認し、共有している。また、常に掲示しており、ケアのあり方を日々振り返り、理念に沿ったケアにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、区のお宮である行事の輪くぐりには、声をかけていただき参加している。認知症サポーターの方々、社協、ボランティアの方と利用者が交流する機会がある。コロナ禍のため利用者との交流はできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム長自宅横にホームがあり、地域の高齢者の暮らしに気を配っている。老人会や区役にも参加し、交流している。又、スタッフも支援できる場所は協力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、家族、行政との情報交換や意見交換、要望を聴き、そのことを謙虚に受け止め、サービスに活かしている。コロナ禍のため状況を見ながら開催している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の福祉課や社協とも連携は密に取り合っており、協力関係ができています。また、中学生の福祉体験などの受け入れは、現状できていない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強をし、理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、玄関、ベランダの鍵は、日中開けおり、自由に行き来できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会での学ぶ機会を多く持ち、スタッフ間で情報を共有し、日々のケアを振り返りながら防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な時に支援できるように把握し、活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人や家族の思いや不安などをしっかり受け止め、十分な話し合い、説明を行った上で、理解、納得されているか確認をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関のカウンターに設置している。また、日ごろから何かあれば気軽に言うてくださるように伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会を通して、意見交換、話し合いの場を設けている。ホーム内研修では、BS法を用いて自由に発言出来る環境にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、目標管理で各自の意識を確認し、向上心を持って働けるように研修があれば参加の声をかけたり、資格の情報提供をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回のホーム内研修を行い、利用者の現状、月行事の計画、スタッフ間の意見交換の場を設けている。必ず一つテーマを決めて学ぶ機会を作っている。又ホーム外研修にも積極的に参加し、学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二か月に一回のグループホーム連絡会には必ず参加し、他ホームとの意見交換、勉強会を行い、交流の場ともなっており、サービスの質の向上になっている。コロナ禍のため現状ではFAX、電話で情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があつてから、本人と面談し、本人の思いを確認する機会を持ち、安心してもらえるように努めている。本人の希望を確認するためにも、スタッフ間でカンファレンスを行い、情報共有、再確認、家族の希望も取り入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談しやすい環境を作り、家族の思いを受け止め、今の思いや、これからの不安、希望等を確認し、家族と共に支援していくことを何度も伝え、理解の確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の中から、その時が必要か、どのような支援が必要なのかを読み取るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する中で、人生の先輩として本人から学ぶことも多く、お互いを理解し、支えあう関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族のこれまでの関係を大切にしながら、本人を支援できるように、家族とスタッフの間で、情報の共有を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にされてきた方々の面会があつた時は、居室や相談室で大切な時間をゆっくり過ごしていただけるようにしている。コロナ禍では、窓越しに会ってもらい、声が聞こえにくいため、お互いが話されることをスタッフが伝えるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然とお互いを気遣い、支え合いながら過ごされている。気の合うもの同士、それぞれが好みの場所で自由に一緒に談笑されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、これまでの関係を大切にし、家族には可能な限り支援している。本人にも面会に行き、声かけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望をしっかりと把握するようにしている。その思いや希望を申し送りノートを使い、スタッフ間で情報共有し、思いを受け止め、利用者本位のケアを目指している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフ全員で、今までの生活歴を把握し、本人らしさを大切にしたいケアや暮らし方を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人家族の情報をもとに、一日の過ごし方を把握し、その生活の中から、表情、会話、行動等を観察しながら、心身の状態を把握するよう努めている。また、その中でできる力等の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い、思いを大切にし、現状に即した介護計画を作成している。また、状態が変化した場合、再度話し合い、変化に応じた計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、生活の様子、言動などを観察し、個人カルテに詳しく記録している。スタッフ間での情報共有ができ、介護計画の見直しや、日々のケアの振り返りに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と外出、外泊がいつでもできるようにしている。家族が泊まることもできる。訪問看護や訪問診療など、本人のその時の状態に対応している。コロナ禍のため状況を考慮しながら病院受診のみ外出される。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いつも行く買い物で利用する店の方の協力が得られており、利用者と安心して買い物に行くことができる。ボランティアの方々の踊り、歌等の慰問もある。コロナ禍のため行われない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を重視している。医療機関とも密に情報交換し、すぐに対応できるように関係を作っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの中に看護師が多く、気づきがあれば、相談、情報交換、協力しながら利用者の受診、看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会に行き、状態、情報収集をしている。環境の変化が利用者には大きく影響を及ぼすので、病院側と密に連絡を取り合い、情報交換、相談をしている。日頃から情報交換し連携できている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期へ向けて家族、かかりつけ医との話し合いを適宜行っている。月一回の訪問診療、看護を導入して、医療、看護、介護のスタッフがチームとして支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師がいるため、急変時迅速な対応ができています。その他のスタッフもできるように日頃から勉強、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策の大切さを日頃から意識付けをしている。地域の方々との協力体制もできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しながら、言葉かけや対応に気をつけ、プライバシーの保護を徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた説明をし、納得をいただいている。本人の思いや希望が表せるような雰囲気を作り、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を確認するためにも、スタッフ間でカンファレンスを行い、情報共有、再確認、家族の希望を取り入れている。本人らしい暮らしができるように、本人の希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室へ行きたい利用者に対しては、スタッフと一緒にいたり、家族で連れて行かれることもある。ホームでのカットを希望されれば、スタッフが対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切り、お茶つぎ、食器拭き等一人ひとりの力を活かし、楽しみながら一緒にしている。季節野菜の話をし、どう料理するか一緒に考え、食事に提供することでより食事を楽しむ機会になっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して、栄養のバランスを考えながら献立を立て支援している。食事量しっかりと把握し、その人に合わせて提供している。また、一人ひとりに合わせて、お粥食、きざみ食、小盛食等用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけ、口腔内の確認をして口腔内の清潔を保っている。口腔ケア指導を歯科衛生士さんから受け、口腔ケアの重要性を認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、スタッフで共有している。また、排泄のサインを見逃さないように観察している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食べ物を取り入れる等の食事の工夫やおやつ時のからいも、冷たい牛乳などで便秘への働きかけを行っている。また、夕食にヨーグルトを食べてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の気分や体調(バイタルチェック)を把握し、本人の希望に沿って楽しく入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも休息をとりたい方もおられるので、その時は、ゆっくり休んでいただくようにしている。夜間も安心して眠られるように、声かけ、見守りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自が服用している薬について情報を共有し、理解している。副作用がないか薬の変更時には特に注意し観察している。薬を袋より出し、手渡ししたり、口に入れ、飲み込まれるまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自ら洗濯物たたみ、食事の準備、食器拭き、草取り等希望され、本人なりに役割を持って過ごされている。また、ベランダへ出て散歩等、気分転換されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物には同行はできず、お宮などに散歩はいかれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望にて、財布を持たれている方もおられる。手元にあることで安心されている。お金の出し入れはあまりない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族への電話を希望されれば、自由にできるようにしておいたり、会話することで落ち着かれ安心されている。手紙のやり取りができる人はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雑音、騒音もなく不快な音や光がないように配慮している。玄関や食堂には季節の花が生けてある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、和室ソファ、こたつ等それぞれの好みの場所で、一人でゆっくりくつろいだり、気の合う方同士でそれぞれの時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでいいということを伝えても、なかなか持込みはされず、私物は少ない方が多いが、本人はそれで納得し安心しておられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりが付いており、必要時手すりにつかまり歩行、立ち上がりされている。ドアがどこも似ており、トイレの文字をわかりやすく書いたり、居室の名札は利用者の目線に合わせた高さになっている。		